

## ～関係詞の塊がどこからどこまでなのか～

関係詞の文法問題はすらすら解けるのに、長文の中で関係詞に出会うと、なぜか途端に訳せなくなってしまう。そんな人が非常に多いです。実は、この問題は、「**関係詞の塊がどこからどこまでなのか**」をしっかりと捉えられていないということが大きな原因なのです。

関係詞の塊がどこからどこまでなのか、をしっかりと捉えられれば、長文読解の関係詞は全く怖いものではなくなります。ここでは、関係詞の塊がどこからどこまでなのかを見極める方法をいくつか紹介します。

### ① 関係詞全般について

**関係詞節には、必ずSとVが存在します。**これは頭に入れておいてください。  
**長文を読んでいて関係詞を見つけたら、まずはSとVを確認してください。**

Most of accidents which bring about big disasters are assignable to human error.

上の文を見ると、関係詞の **which** が見つかりますので、そこから関係代名詞の節が始まり、その中のSは **which**、Vは **bring about** であることが確認できます。

Most of accidents [ which bring about big disasters are assignable to human error.

S V

**SとVを確認した後は、Vに着目します。**bring about は「～を引き起こす」という他動詞系なので、この後には必ず名詞が来るはず。後ろを見ると、**big disasters** がありますね。これが **bring about** の目的語です。

**bring about** の用法は、上で書いたとおり、**bring about** ～ 「～を引き起こす」で、～の部分に名詞をとって終わります。なので、ここまでが関係代名詞の節です。

Most of accidents [ which bring about big disasters ] are assignable to human error.

S V O

「大災害を引き起こす事故の多くは、人的ミスによるものである」

もう1つ例文を見てみましょう。

The invention of the device which enables us to travel through time will shake the world.

上の文を見ると、関係代名詞の **which** がありますね。ここから関係代名詞の節が始まります。関係代名詞の中のSは **which**、Vは **enables** ということを確認しておきましょう。

The invention of the device [ which enables us to travel through time will shake the world.

S V

SとVを確認した後は、Vに着目します。enable は enable O to V 「Oが～すること  
を可能にする」という用法をよく使います。なので、この後の形も enable O to V であ  
ることが予測できます。実際に見てみると、enables us to travel through time となっ  
ていることが分かります。enable によって導かれる塊は、ここまでです。なので、こ  
こまでが関係詞の塊になります。

The invention of the device [ which enables us to travel through time ] will shake the  
world. S V (enable O to V)

「時間を超える装置の発明は、世界を激震させるだろう」

このように、関係代名詞の節がどこからどこまでなのかをしっかりと見極めるには、

- 1、関係詞の中のSとVを確認する
- 2、Vの用法（他動詞なのか、第4文型を導く動詞なのか、第5文型を導く動詞なのか  
など）を確認する

という手順を踏むことが、一番オーソドックスなやり方です。最初は、時間がかかるか  
もしれませんが、意識して長文を読んでいるうちに、自然とできるようになります。

## ② 主語に関係詞がついている場合

主語に関係代名詞がついている場合には、関係詞の節を簡単に見極めることができます。

A man who always tells a lie to people around him is not trusted by anybody.

上の文を見てみると、who という関係代名詞があります。who の節がどこからどこまで  
なのかを確認するわけですが、この関係代名詞は明らかに主語の A man についています。  
主語に関係代名詞がついているときは、述語動詞までが関係代名詞の塊になります。

前から文を見ていくと、まず tell という動詞がありますが、これは明らかに関係代名詞  
の中の動詞です。その次には、is という動詞が出てきますが、これは関係代名詞の中の  
動詞ではなく、述語動詞です。なので、この直前までが関係代名詞の塊です。

A man [ who always tells a lie to people around him ] is not trusted by anybody.

S

V(述語動詞)

「いつも周りの人に嘘をつく人は、誰からも信用されない」

## ③ 目的格の関係代名詞が省略されている場合

目的格の関係代名詞が省略されている時には、その省略に気付くということがとても大  
切です。

One thing you can definitely say about the Japanese people is that they have a lot  
of trouble with their stomach.

上の文を見て、関係代名詞の省略にすぐ気付きますか？実は、関係代名詞の省略に気  
付く簡単な方法として、「名詞が2つ並んだら、関係代名詞の省略の可能性大」という

ものがあります。

上の文を見てください。One thing 「一つの事柄」という名詞と you 「あなたは」という名詞が、並んでいますね。こういう場合、その間に目的格の関係代名詞 which が省略されていることが非常に多いです。which を実際に補ってみると、

One thing **which** you can definitely say about the Japanese people is that they have a lot of trouble with their stomach.

となりますが、say の後の目的語が欠損しているので、say の目的語が which になったと考えれば、やはり One thing と you の間に which が省略されているということになります。

ここまでくれば、後は①や②のやり方から、

One thing [**which** you can definitely say about the Japanese people ] is that they have a lot of trouble with their stomach.

「日本人について私たちがはっきりと言える1つの事柄は、彼らはとてもたくさんの胃の問題を抱えているということだ」

という感じで、関係代名詞の塊を捉えることができます。

「名詞が2つ並んだら、関係代名詞の省略の可能性大」という方法は、頭の中に入れておくと、関係代名詞の省略を捉えるのに、とても便利でしょう。

#### ④ 前置詞＋関係詞の場合

まだ書いていない。。